
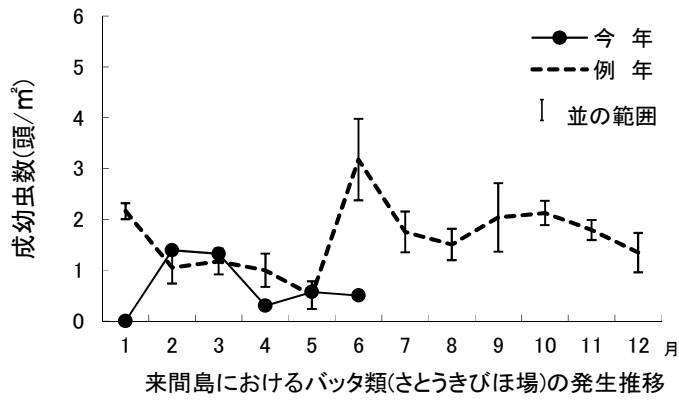


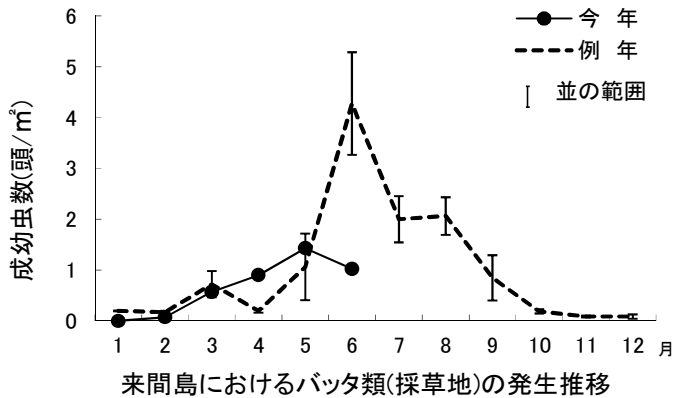
| | | | |
|------------|--------------------------------------|----|---|
| 作物 | さとうきび | 地域 | 宮古群島 |
| 病害虫名 | バッタ類 | |  |
| 6月の発生量（現況） | 少 | | |
| 7月の増減傾向 | ↓ | | |
| 増減傾向の根拠 | 成虫・幼虫数の例年の発生推移から、6月より発生量は減少すると考えられる。 | | |

発生量の根拠（調査結果）

さとうきび圃場




採草地



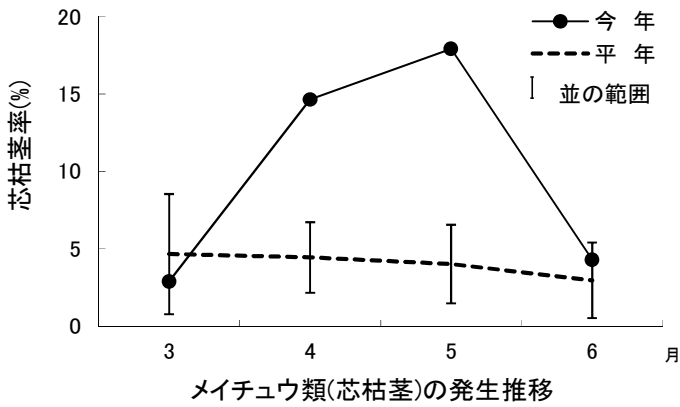
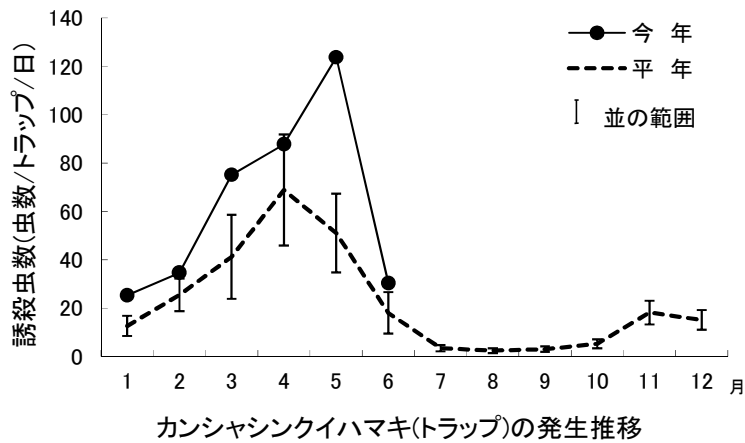
- ・ 来間島の一部地域では多発していた。（発生種：タイワンツチイナゴ）
- ・ 防除員の情報では、宮古島の一部地域でヒゲマダライナゴが多発した情報あり。

防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・ 幼虫期の防除が効果的なので、ほ場周辺の見回りをを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

| | | | |
|------------|--|----|---|
| 作物 | さとうきび | 地域 | 宮古群島 |
| 病害虫名 | ① メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ) | |  |
| 6月の発生量(現況) | やや多 | | |
| 7月の増減傾向 | ↓ | | |
| 増減傾向の根拠 | トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、6月より発生量は減少すると考えられる。 | | |


発生量の根拠(調査結果)



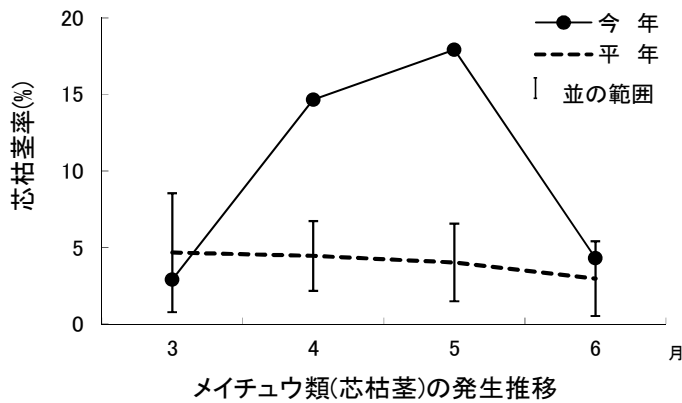
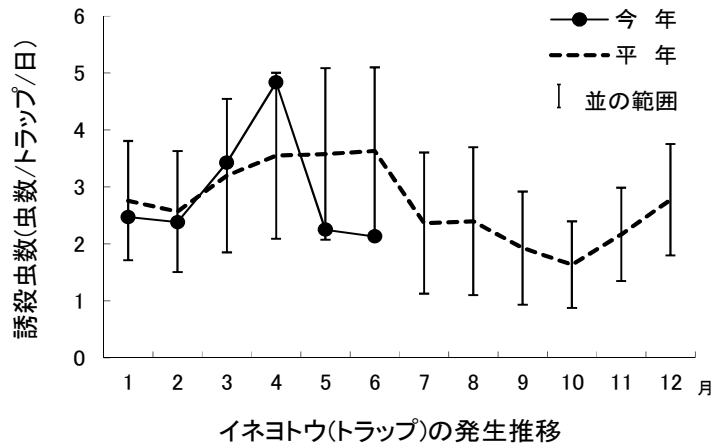
・宮古島及び伊良部島内における芯枯茎調査の結果、約67%が本種であった。

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

| | | | |
|------------|--|----|---|
| 作物 | さとうきび | 地域 | 宮古群島 |
| 病害虫名 | ② メイチュウ類(イネヨトウ) | |  |
| 6月の発生量(現況) | 並 | | |
| 7月の増減傾向 | ↓ | | |
| 増減傾向の根拠 | トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、6月より発生量は減少すると考えられる。 | | |


発生量の根拠(調査結果)



・宮古島及び伊良部島内における芯枯茎調査の結果、約33%が本種であった。

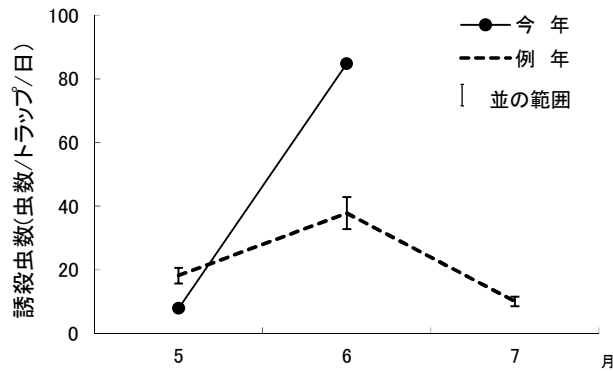
防除のポイント

- ・卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

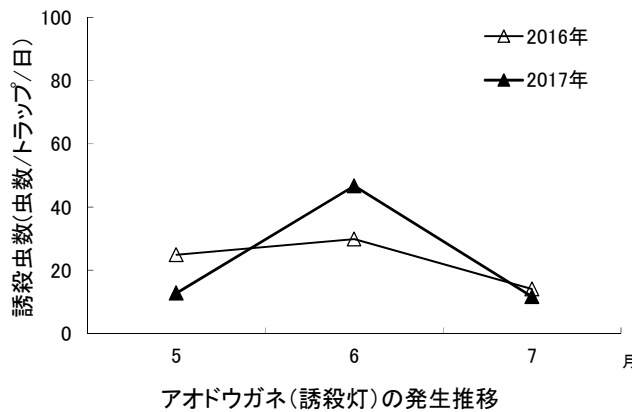
| | | | |
|------------|------------------------------------|----|---|
| 作物 | さとうきび | 地域 | 宮古群島 |
| 病害虫名 | アオドウガネ | |  |
| 6月の発生量(現況) | 多 | | |
| 7月の増減傾向 | ↓ | | |
| 増減傾向の根拠 | 誘殺虫数の例年の発生推移から、6月より発生量は減少すると考えられる。 | | |

発生量の根拠(調査結果)

今年と例年の推移



過去2年間の推移



防除のポイント

若齢幼虫を防除するため、培土時に粒剤を処理する。
 成虫を防除するために誘殺灯を設置し大量誘殺による防除を行う。